

海の
仕事の

海事書籍編集

海国日本の文化と技術を伝える

発行

函館水産高等学校
北のくにづくり2021
久保田美月・三浦星輝

夢と希望を持てる教科書

水産高校の一年生なら必ず使う教科書「水産海洋基礎」。私たちも四月に入学以来、水産生としての基礎・基本をこの教科書で学んでいる。本校にはこの教科書の執筆に携わった先生がいて、その先生から「この教科書は、水産高校に入ってくる生徒に「夢と希望を持って水産を学んでもらうこと」を願って書いた」という強い思いを聞いた。そこで、今回、この教科書の編集を担当した海文堂出版の編集部長である岩本登志雄さん取材した。

夢と希望の真相

「教科書は文部科学省が示す学習指導要領に基づいて執筆されるものであるから、勝手に夢と希望を前面に出して書くわけにはいかない。ただ、この教科書を執筆なさった五名の先生方は、学習指導要領を逸脱しない範囲で、水産高校に入学した生徒さんが、将来、海国日本を背負う人材になってほしいという強い思いを込めて執筆したことは間違いない」と岩本さんは真相を明かしてくれた。

裏表紙に込められた思い

この教科書の裏表紙には、船のマストにはためく二枚の旗の写真がある。この旗は船舶間で交わす国際信号旗のUとWに相当し、このUW二枚の旗を同時に掲げることで「貴船の安全航海を祈る」という意味になる。執筆が終わり近くに近づき、執筆者の中から、「水産高校に入学した生徒が夢と希望を持って高校三年間を終え、無事卒業して



くれることを祈ってUWの写真を見せましよう」ということが提案された。この案は満場一致で決まり、裏表紙を飾ることになったという。

長谷川勝治先生の証言

私たちは、この教科書の執筆者であり、まとめ役だった長谷川勝治先生を紹介していただき、執筆当時の思いを伺った。先生は、「あんなに楽しい編集会議はなかった。五人の編集委員全員が熱い思いを抱き、意見をぶつけ合った・・・。水産高校に入学してくる生徒に先ず学んでもらいたいことは、海への・魚への・船への面白さ・魅力・夢だ！そんな教科書を作ろう！意気投合した。持ち寄った原稿は、皆で忌憚なく意見を述べ合い、書き直していった。あの教科書は五人の作品であるところでも思っている。」と回想して下さった。



元静岡県立焼津水産高校校長

長谷川 勝治 先生

教科書が誕生するまで

このことについて、この教科書の執筆者であり、本校水産食品科の教員だった我妻雅夫先生に聞いてみた。

先生は、「この時とばかり、それまでに培った知識と経験を最大限出し切り、自分が温めてきた内容、思いのたけを文章にしたという。しかし、文科省から「この文章表現は教科書としていかがなものか」という苦言が来たという。この時、執筆者の思いを熱く代弁してくれたのが編集者である岩本さんだという。岩本さんが頑張ってくれたから、「水産海洋基礎」は誕生したという。

海・船・水産の魅力をお届け

北水ブックス

北水ブックス

「北水ブックス」とは、北海道大学水産学部の先生方の研究をわかりやすく紹介し、中学生にもわくわくドキドキ、そしてライブ感を持って読めるシリーズ本の総称。現在、先生方にそれぞれの研究分野を執筆してもらい六冊目まで刊行されている。

水産学部の先生から「海文堂さんは北水ブックスを何冊目ぐらいまで世に出すつもりですか？」と問われ、「先生方が執筆してくださいるなら、学部の方の数だけ発行する覚悟です」と答えたとのこと。

北水ブックスへの思い

北水ブックスをゼロからスタートさせた岩本さんに、北水ブックス立ち上げの思いを尋ねた。

「一つ目は、自己都合で函館に住まうことになり、函館でできることを考えたところ、大変失礼な言い方だが、北大水産学部といえども、本州の一般人には、北大の学部が函館にあること、加えてその学部が水



函館水産高校で行った岩本さんへの取材

北水ブックス紹介

既に刊行されている六冊の内、私たちが読んでみた二冊を紹介する。

「海をまるごとサイエンス」

記念すべき北水ブックス第一冊目の本。著者は、海に魅せられた北大の研究者たち。第一章から第十一章まで、十一名で各章を分担執筆している。海洋生物の生態や利用に始まり海洋物理まで多岐にわたる内容。中には、サケの耳石を研究しているKYさん(漫画家志望が描いたサケの野外調査の漫画がとてもしき生きと描かれていて、私も野外調査をしてみたくなった。(久保田)



「魚類分類学のすすめ」

著者は、北海道大学水産科学研究院教授である今村央先生。水産高校でも魚類のスケッチをやらされるが、魚類分類学を研究している先生方が描いたスケッチがすごい。この本のすごいところは、すごいスケッチの描き方を誰にでもわかるように紹介しているところだ。

私のおじいちゃんには函館の漁師だから、私は小さい頃から魚にはなじみがある方だが、この本を読むと、知らないことばかりだった。研究者ってすごい。(三浦)



北大水産学部「水産旗」



今村 央 著

リモート編集者に函館はどう映ったか

岩本さんは、ご高齢のご両親の面倒をみるために、3年前から函館に住んで仕事をしています。コロナ禍で有名になった「リモートワーク」の先駆けである。ここでは、海事書籍編集者として「リモートワークの実態」「函館の人」について伺ってみたい。

リモートワークは？

リモートワークして痛切に感じていることは、編集者は執筆者と顔を突き合わせて仕事をすることがいかに大事なこと。その点、北水ブックスはお互い地元なので、編集上の問題はありませぬ。

●編集部長という肩書からいうと、部下の指導が行き届いていないかなーということ。東京勤務であれば、仕事を通じてリアルタイムで教えることができるのですが、反面、部下の立場としては、常時、煙たいのがそばにいないと案外いいのかもしれない。(笑)

●「リモート鬱」が取りざたされていますが、私の場合、そういうことはありません。函館は仕事に熱中できる環境なので、ついつい時間を忘れて仕事に没頭してしまふ。その結果、家族と談笑するのが食事の時だけとかになりがちで、大いに反省しなければならぬ点です。

函館の人はどうですか？

●北水ブックスの企画をどうやって北水産産学部に提案しようかと悩んでいた時、学部卒業生と学部元職員の鶴沼さん(※モリス研究者)が、当時、水産科学研究院長だった安井肇先生(※ガゴメ昆布普及の立役者)を紹介してくださいました。

お二人に付き添ってもらって水産産学部を訪ね、安井先生に北水ブックスの企画を説明した。先生はすぐに企画に乗ってくださり、時を置かず執筆可能な研究者を募ってくださいました。函館に来て、まだ日も浅く、右も左も分からない私にとって、本当にありがたい出来事でした。

箱館丸の活用法。何かいい案ありませんか？



箱館丸誕生

北海道新聞に、右に掲げる記事が載った。箱館丸は統豊次がペリー艦隊箱館来航時、箱館奉行の許可の下、黒船の中を見る機会を得て、見よう見まねで作ったトップスルスクーナー型の洋式帆船である。

日本の洋式帆船の歴史を見ると、伊豆半島で津波により航行不能になったロシア軍艦「ディアナ号」の乗組員が日本人船大工の協力で作った洋式帆船が戸田(へだ)型。続いて建造された洋式帆船が千代田型。千代田型は、戸田型で洋式帆船の作り方を習った船大工たちが幕府の命令で作った洋式帆船である。しかし、箱館丸は箱館が生んだ統豊次という稀有な船大工が自力で作った純国産洋式帆船である。

ペリー艦隊と和船

1854年にペリー艦隊が五隻の黒船で箱館港を視察に来航した時、ペリー艦隊は、北前船の造船所を見て、「日本の船は外洋を航行できないよう、幕府の指示で規格化されたワンドesign艇(同一の設計図で作ら

れた船)である。船大工の頭の中にこの設計図が入っていて、何も考えなくても規格どおりの船ができる」とレポートしている。

和船は、西洋の船と違い、竜骨(キール)と肋骨(フレーム)の構造を持たない。簡単にいうと、くりぬき船を一番下に据え付け、そこから横に張り出した棚板や側板をつなぎ合わせて作られた構造船である。このような船しか手がけたことがない統豊次が、黒船の船内を見ただけで洋式帆船を作り上げたことには、驚くばかりである。

箱館丸、上海・ロシア交易

箱館丸は、函館五稜郭の設計者である武田斐三郎が船将(船長)となつて、蝦夷地北海道の産物を交易するために上海やロシアへの航海を実行した。箱館丸のこの偉業に対して、戸田型や千代田型は外国への航海はしていない。そういう意味でも箱館丸は特異な船である。

高田屋嘉兵衛と統豊次

統豊次は高田屋嘉兵衛が経営する造船所の船大工だった。ところが、高田屋とロシアの密貿易発覚後、高田屋は没落・廃業して、統豊次は仏壇作りをして凌いだという。統豊次が手がけた仏壇は、今も北斗市の松代家で大切に使われているという。

帆船レース

明治十三年。函館港で洋式帆船レ

ースが開催された。このレースの目的は、開拓使北海道庁が、五〇〇石以上の船を新造する場合、和船ではなく洋式帆船にせよという命令を徹底させることだった。

統豊次の息子「卯之吉」

卯之吉は造船技術を身に着けるため、函館の富士造船の養子となり、富士卯之吉を名乗り箱館丸の建造にも関わった。その後、ポーター商会に勤め、英語を習得して、英国人ブラキストンから気象観測を教わり、海洋気象台の礎を築き、さらに、新島襄の箱館からアメリカへの脱国を手引きに成功した。

箱館丸、本になりませんか

今回、私たちが調べ上げただけでも箱館丸はともドラマチツクな歴史を持ち、函館にとつて忘れてはならない遺産だと確信する。「活用進まず」などと情けないことを言わせないうためにも、海事書籍として出版できないものか。

岩本さんから、出版を実現するために、クラウドファンディングで出資を呼びかける方法があることを教えてもらった。クラウドファンディングで箱館丸を知ってもらうだけでも効果が期待できる。さらに出資をお願いして、航行可能な箱館丸を新造して、青少年に航海訓練を経験してもらおうということも考えられる。



国際信号旗のUとWを2枚重ねると、「あなた」のこれからの航海の安全を祈ります」という意味になることを水産高校に来て初めて知った。UW旗が船のマストにひるがえっている写真が、私たちの教科書「水産海洋基礎」の裏表紙に掲載してある。今回、この教科書の編集者だった海文堂出版編集部長である岩本さんを取材して、この写真に込めた執筆者・編集者の熱い思いを知ることができた。

裏表紙のほぼ中央に印刷された3cm×5cmほどのとても小さな写真。こんな小さな写真に、私たち水産高校生が夢と希望を持って勉強に励み、無事卒業してほしいという大きな思いが込められていたなんて、とても感動した。(久保田)

「海の仕事」というと、船を操縦したり、エンジンの面倒を見たり、造船だったり、とても責任が重く、ダイナミックな仕事ばかりを考えていた。ところがこの新聞を作ることによって、海事本を作る地道な仕事の存在と大切さを理解することができた。

海国日本を支えるには、海や船、水産生物に興味を持つ若い世代を増やすことが大事だ。このことを実現するのに、海事本はとても力を発揮する。編集者がUWの写真に込めた気持ちを知っただけで私は水産高校が好きになった。ペンは武よりも強いという例えどおり、書籍文化の力を感じた取材だった。(三浦)

